

令和7年度
(2025年度)

上下水道部の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

水道・下水道事業の持続的・安定的な経営に取り組みつつ、お客さま目線で公共の福祉の増進を図るため、公営企業としての独立採算を基本としながら、上下水道施設における老朽化対策と耐震化、浸水対策の推進に取り組むなど、戦略的な経営の推進と水道ビジョン2022・下水道ビジョン2022に掲げる理想像の実現をめざします。そのため、社会情勢の変化に部一体となって迅速に対応できる組織力・機動力を持った執行体制の構築による施策の推進に取り組んでいきます。

<基本理念>

未来につなぐ 枚方の水道
未来につなぐ 枚方の下水道

<部の構成>

上下水道総務課
上下水道政策課
上下水道財務課
上水道管理課
浄水課
上水道工務課
上水道保全課
下水道管理課
下水道整備課
下水道施設維持課

<主な担当事務>

- (1) 部の事務事業の見直しの総括に関する事。
- (2) 部の総合計画及びその調整に関する事。
- (3) 部の予算及び決算に関する事。
- (4) 文書及び法規に関する事。
- (5) 職員の人事、給与及び福利厚生に関する事。
- (6) 水道及び下水道の整備・維持・管理に関する事。
- (7) 部の工事の検査及び審査に関する事。
- (8) 部の危機管理に関する事。

重点的な取り組み：適正な予算編成と執行管理

人口減少や節水機器の普及などにより、給水収益や下水道使用料は年々減少傾向にあり、さらに物価高騰への対応や長期金利の上昇に伴う支払利息の増加など、公営企業の経営環境が厳しさを増しています。そうした中、将来にわたって安定的に水道・下水道サービスを提供するためには、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上を図る必要があります。将来世代に負担を先送りしないよう、上下水道局が一体となり、計画的な事業執行と長期的な視野をもった財政運営を行います。

実 績	① 「枚方市水道事業経営戦略」に基づく予算編成及び事業の執行管理。 ② 「枚方市下水道事業経営戦略」に基づく予算編成及び事業の執行管理。
説 明	① 令和7年度においては、収益面では、物価高騰支援対応策として2か月分の基本料金等の減免を行ったことから、給水収益は計画値を下回りましたが、これについては一般会計繰入金で全額補填されており、収益全体では計画値を上回りました。また、費用面では、物価高騰や人件費の上昇等による経費の増加があったものの、事業の進捗により減価償却費が計画値を下回るなど、費用全体では計画値を下回ったことから、令和7年度決算では計画値を上回る純利益を計上しました。事業面では、老朽化した管路の更新や中宮浄水場の更新事業などを進めていますが、将来世代に負担を先送りしないよう内部留保資金を活用することで企業債の借入を抑制し、令和7年度末の企業債残高は計画値を下回っています。

	② 下水道使用料については前年度に比べ微増となり、令和7年度の計画値を上回りました。長期前受金戻入や受取利息なども上振れし、収益全体で計画値を上回りました。また、費用面では、流域下水道維持管理費が計画値を上回ったものの、企業債残高の減少により支払利息が計画値を下回ったことなどから、おおむね計画値どおりの執行となり、令和7年度決算では計画値を上回る純利益を計上しました。事業面では、老朽化した管路の更新やポンプ場の耐震化などを進めていますが、国庫補助金を優先的に活用するとともに、雨水事業においては時限措置である緊急自然災害防止対策事業債を積極的に活用するなど、将来負担の軽減を図りました。
--	--

重点的な取り組み：中宮浄水場更新事業

安全・安心で持続可能な水道の供給を実現するために、令和10年度（2028年度）からの本格稼働を目指し、引き続き前処理施設及び膜ろ過棟の建設工事に取り組みます。



実 績	① 前処理施設・膜ろ過棟の躯体構造物の築造が完了。
説 明	① 前処理施設・膜ろ過棟の躯体構造物の築造が予定とおり完了しました。令和8年度は令和10年度の全面運用開始を目指し、構造物の内部工事や膜ろ過ユニットなどの機械設備、機器操作盤などの電気設備の設置を進めていきます。

重点的な取り組み：上下水道施設等の更新・耐震化
【施策シート：01—03】

水道施設等の更新・耐震化事業
 枚方市水道施設整備基本計画に基づき、引き続き妙見山配水池の更新基本設計を進めるなど、水道施設の更新・耐震化事業に取り組みます。
 また、中宮浄水場から春日受水場間の送水管更新・耐震化工事に着手するとともに、配水管の更新・耐震化についても、効率的・効果的に取り組みます。

ポンプ場の耐震化及び老朽化対策

災害に強いまちづくりに向けて、枚方市下水道整備基本計画を着実に推進し、市民生活の安全確保として維持管理に係るライフサイクルコストの最小化を図りながら、ポンプ場の耐震化や老朽化対策に取り組んでいます。

令和7年度は、蹉跎ポンプ場をはじめ8箇所のポンプ場（雨水：7箇所、汚水：1箇所）において、耐震化工事や耐震性能の確保に向けた実施設計を進めるとともに、受変電設備の更新工事等に取り組めます。

取り組みの成果を測る指標	令和7年度目標値	令和7年度実績
水道管路の耐震化率	30.3%	30.5%
ポンプ場の耐震化率	44.2%	42.9%

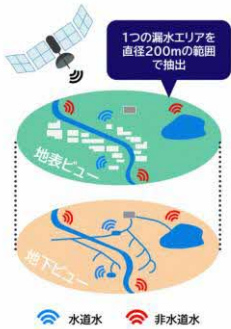
実 績	① 水道管路の更新による耐震化工事を継続的に実施。 ＜耐震性能を有する水道管路の割合 30.5%＞ ② 妙見山配水池の更新・耐震化の基本設計が完了。 ③ 耐震化工事に向けた実施設計の実施。＜3件＞ ④ 耐震化工事の実施。＜9件（建築3件、土木6件）＞ ⑤ 老朽化対策工事の実施。＜10件（建築5件、機械電気設備5件）＞
説 明	① 水道水を安定的に供給するため、「水道施設整備基本計画」に基づき、水道施設・管路の更新及び耐震化に取り組んでおり、主な内容として、中宮浄水場から春日受水場までの約3.5kmの区間において、令和7年度（2025年度）も引き続き送水管更新工事を進めました。その他、招提田近1丁目地区等で基幹管路の更新、連続立体交差事業などに伴う移設工事を実施し、それぞれ水道管路の耐震化工事を進めました。なお、経年劣化により漏水が発生した管路の更新工事を前倒ししたため、耐震化率の目標値を上回る結果となりました。 令和8年度（2026年度）以降も引き続き、水道管路の更新・耐震化を行い、安定した水道水の供給に取り組んでいきます。 ② 妙見山配水池の更新・耐震化の基本設計が完了しました。令和8年度は詳細設計に取り組み、枚方市水道施設整備基本計画で示した配水池耐震化率79.4%に向け、引き続き水道施設の更新・耐震化を進めます。 ③ 黒田川ポンプ場他2件の耐震化実施設計を行いました。耐震指針の改定が行われたことにより、耐震性能を満たす構造物の確認が遅れたため、耐震化率が目標値を下回りました。 ④ 建築構造物については、蹉跎ポンプ場他2件の耐震化工事が完了し、黒田川ポンプ場に着手しました。また、土木構造物については、北部ポンプ場の2期工事が完了し、北部ポンプ場の3期工事他4件の耐震化工事に着手しました。 ⑤ 建築構造物については、蹉跎ポンプ場他3件の老朽化対策工事が完了し、黒

	田川ポンプ場に着手しました。機械電気設備については、蹉跎ポンプ場の受変電設備更新工事他4件の工事を行いました。
--	---

重点的な取り組み：人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等業務
【施策シート：26—03】

水道管の漏水について、人工衛星データとAI解析を活用し、漏水の可能性のあるエリアを抽出することで、漏水箇所を特定するための調査を効率化し、早期の修繕対応に結び付けるとともに、大規模断水などの未然防止に努めます。

※右図はイメージ
(国土交通省資料より引用)



実績	① 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知業務を実施。 <解析対象距離(管路延長): 1911.2 km、漏水可能性エリア: 330 箇所>
	② 抽出された漏水可能性エリア 330 箇所のうち、131 箇所で漏水調査を実施。
説明	① 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知業務を実施したことにより、市内全域で漏水の可能性のあるエリアを抽出しました。
	② 漏水可能性エリア 330 箇所を令和7年度から3か年で計画的に漏水調査(路面音聴等)を実施予定です。

重点的な取り組み：浸水対策の推進
【施策シート：01—04】

浸水対策の主要な取り組みとして、藤阪元町地区雨水管整備事業については、令和6年度までは調査業務や雨水排水施設の整備に支障となる地下埋設物の移設工事を行ってきましたが、今年度からは、令和9年度の完成を目標として雨水排水施設の整備に取り組みます。

また、内野排水路については、関係機関と協議、調整を図りながら、整備手法の検討を行うための基本設計に取り組みます。

取り組みの成果を測る指標	令和7年度目標値	令和7年度実績
主要な雨水幹線管渠の整備率	46.3% (※)	46.3% (※)

※藤阪元町地区雨水管整備事業は、令和7年度から令和9年度の複数年度で、順次雨水排水施設の整備に取り組むこととしており、令和9年度の事業完了時に浸水対策効果が発現(令和9年度完成時の整備率 46.5%)することから、令和7年度も整備に取り組みますが、目標値は令和6年度実績と同じ整備率としています。
(全体延長約 800mの内、約 150mの整備に取り組みます。なお、令和8年度は約 290m、令和9年度は約 360mの整備に取り組みます。)

実 績	① 雨水管整備工事の実施。＜１件＞ ② 雨水管整備に向けた基本設計の実施。＜１件＞
説 明	① 藤阪元町地区で雨水排水施設の整備工事に着手しました。 ② 内野排水路について、整備手法の検討を行うための基本設計に着手しました。

重点的な取り組み：汚水整備事業

【施策シート：２６―０４】

公共用水域の水質保全を図り、安全で良好な生活環境が確保されたまちを目指すため、点在する未承諾地区や整備困難地区の解消に取り組みます。今年度については、野村中町地区や津田元町３丁目地区等で整備工事を行うとともに、津田西町３丁目地区等で実施設計に取り組みます。

実 績	① 汚水管整備工事の実施。＜３件＞ ② 汚水管整備工事に向けた実施設計の実施。＜２件＞
説 明	① 津田元町３丁目地区他で汚水管整備工事を行いました。 ② 津田西町地区他で汚水管整備に向けた実施設計に着手しました。

重点的な取り組み：危機事象への対応策

生活に不可欠な水道水の供給及び下水道による快適な生活環境の維持を継続するため、今後予測される南海トラフを震源とする巨大地震や風水害等の危機事象への備えとして、危機管理部との連携や災害協定締結団体との合同給水訓練の実施、緊急出動班の体制整備、危機管理に対応するマニュアルの適宜改訂など、常に機動力と実効性が確保された体制の構築に向けて、職員一丸となって取り組みます。

実 績	① 危機管理部との連携による危機事象への訓練対応等の実施。 ② 災害協定締結団体との合同給水訓練の実施。 ③ 緊急出動班の体制の見直し。
説 明	① 危機事象への対応を強化する観点から、総合防災訓練、各校区コミュニティ協議会自主防災訓練（３校）、災害対策本部訓練（図上訓練）への参加、MCA無線の訓練などを通じて、危機管理部との連携を図りました。特に、災害対策本部訓練（図上訓練）においては、上下水道局独自の危機事象を設定し、上下水道局の危機管理マニュアルに基づいた大規模漏水、浸水被害などの対応訓練を上下水道事業管理者・部長をはじめ計３５名の参加により実施しました。 ② 上下水道局だけでは対応できない危機事象発生時を想定し、２月に災害協定

	を締結している3団体との合同による給水活動訓練を実施しました。その内容としては、各団体から給水車等の車両の出動を求め、中宮浄水場と津田低区配水場において、これらの車両を使った実践的な訓練を行いました。 ③ 風水害や突発漏水発生時に対応する緊急出動班について、円滑な引継ぎと職員の負担軽減の観点から踏まえた体制整備に資するよう、次班への交代のタイミングに係るルールの更なる明確化を図りました。
--	---

重点的な取り組み：人材育成と組織の活性化

水道・下水道事業には専門的な知識・技術が不可欠です。そのため、外部研修等の参加によるスキル向上を奨励するとともに、職場でのOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）も引き続き推進します。

また、全職員が公務員である自覚を持ち、服務規律と人権尊重も含むコンプライアンスの遵守を徹底します。さらに、風通しの良い職場環境づくりの醸成を図り、職員一人ひとりが生き生きと持てる能力を最大限に発揮できるよう取り組みます。

実 績	① 上下水道局新入・新規配属職員等研修会の実施。 ② 「エンゲージメント調査」を踏まえた取り組みの実施。
説 明	① 水道・下水道事業の取り組みを理解・習得する機会を設け、職員の資質向上及び局内連携の更なる促進を図るため、上下水道局へ異動してきた職員及び新規採用職員17名を対象に、上下水道局各課の業務内容について研修を実施しました。また、部内事務連絡会議にて、所属長へのOJT実施啓発に取り組み、意識醸成を図りました。今後も引き続き、上下水道局一体となり、OJTや職場研修に取り組んでいきます。 ② 市において試行実施された「エンゲージメント調査」の結果を踏まえ、職員一人ひとりが心身ともに充実し、その能力を最大限に発揮できるような職場づくりに取り組みました。部事務連絡会議等の場を活用して共有を図るなど、部全体のパフォーマンスの向上をめざすとともに、お客さまへのより質の高いサービスの提供につなげていくため、今後も取り組みを進めていきます。

重点的な取り組み：広報と情報発信の強化

水道・下水道の取り組みを広く周知するために、ホームページやSNSの活用のほか、情報誌『Water通信』の発行、出前講座など様々な機会を通じて、広く情報発信を行っていきます。

特に、ホームページリニューアルをはじめ、情報誌『Water通信』の全戸配布など、新たな取り組みを進めます。



実 績	① 上下水道局のホームページをリニューアル。 ② 広報誌『Water 通信』の全戸配布。＜配布部数 190,675 部＞ ③ 「広報ひらかた」に特集記事を掲載。 ④ 「水道・下水道ガイド」の配布。 ⑤ ホームページ・SNS等の媒体を通じた発信。 ⑥ 出前講座の実施。＜6 回＞
説 明	① お客様が必要な情報をすぐに得られるようにするため、12 月に上下水道局のホームページをリニューアルしました。スマートフォンからでも見やすいトップページデザインを採用し、目的のページにたどり着きやすい構成に整え、災害時に最新情報を周知する緊急情報タブを設置しました。今後においても、常に最新で正確な情報を届けられるよう取り組みます。 ② より多くのお客様に上下水道局の情報を届けるため、広報誌『Water 通信』を発行し、「広報ひらかた」3 月号に挟み込むことで全戸配布を行い、最先端の漏水検知調査や雨水ポンプ場の耐震化工事など、上下水道局の取組をわかりやすく発信しました。令和 8 年度においても、上下水道局の安全・安心な水を届け続けるための取組や経営情報に関する情報などを発信するため、『Water 通信』の全戸配布を行います。 ③ 8 月 1 日の「水の日」に合わせて、「広報ひらかた」8 月号巻頭特集において「未来へつなぐ、水」と題して、水が各家庭に届くまでの過程や水道管の老朽化対策など、安全・安心な水を届ける取組について紹介しました。 ④ 水回りに関する役立つ情報をまとめた冊子をご家庭で保存していただくことを目的として平成 28 年に全戸配布した「水道・下水道ガイド」を、市内転入者へ配布しました。 ⑤ 水道・下水道事業の取組を広く発信するため、ホームページ、SNSを活用した広報に加えて、新たな取組として水道管の凍結防止に関するショート動画を作成しました。令和 8 年度においては、短時間でわかりやすく伝える上下水道局版ショート動画の配信を強化することで、より効果的な情報発信を行います。 ⑥ 市内の小学校や団体（グループ）に対して、利き水体験や水処理の過程を説明する出前講座（「意外においしい枚方の水」）や下水道のしくみや役割、下水処理の概要などを説明する出前講座（「ひらかた下水道ばなし」）を実施し、水道事業・下水道事業の取組について、周知・啓発を行いました。